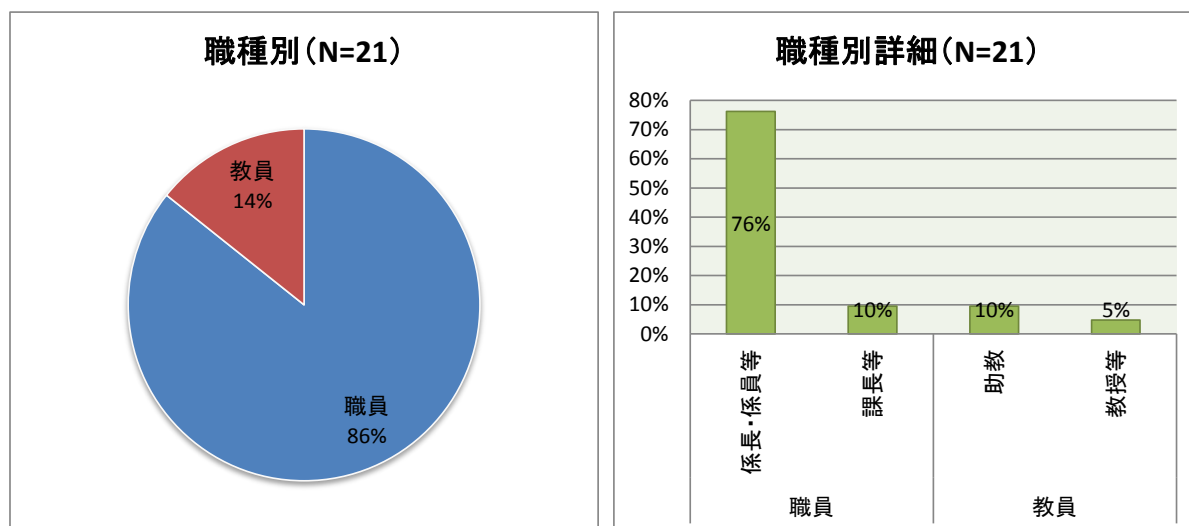
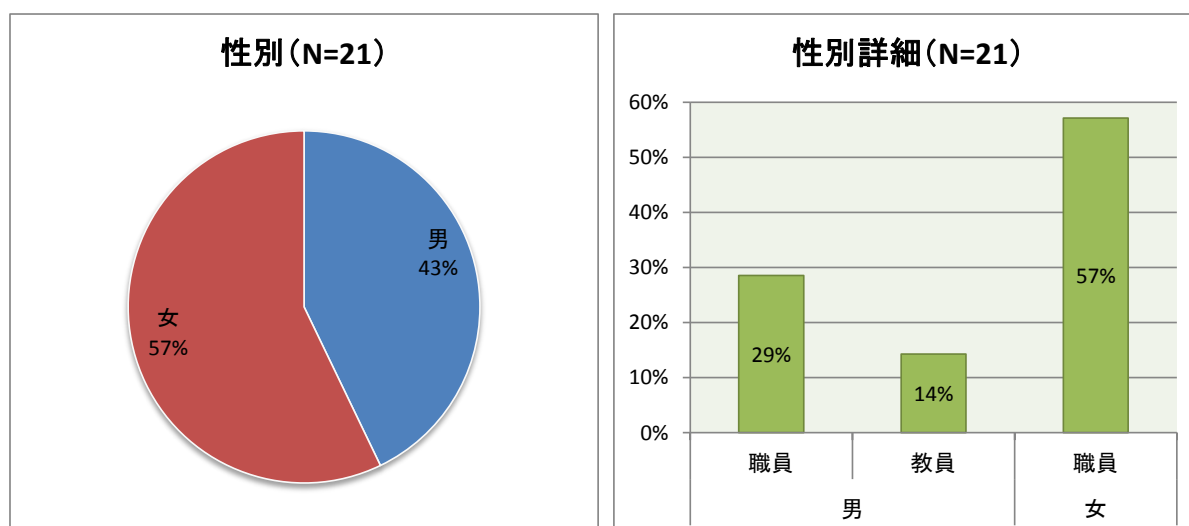


2. 参加者分析

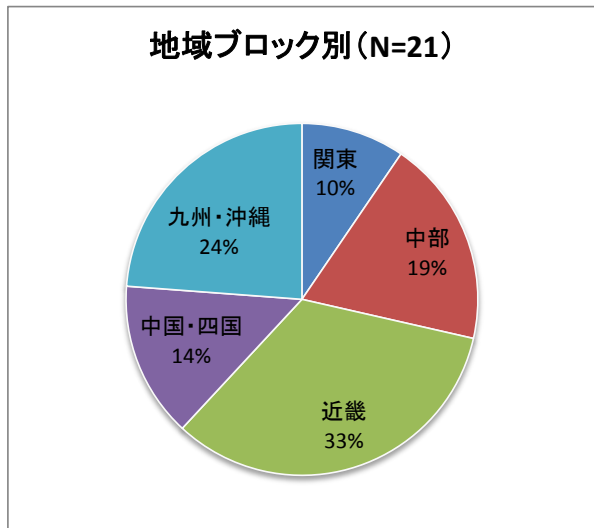
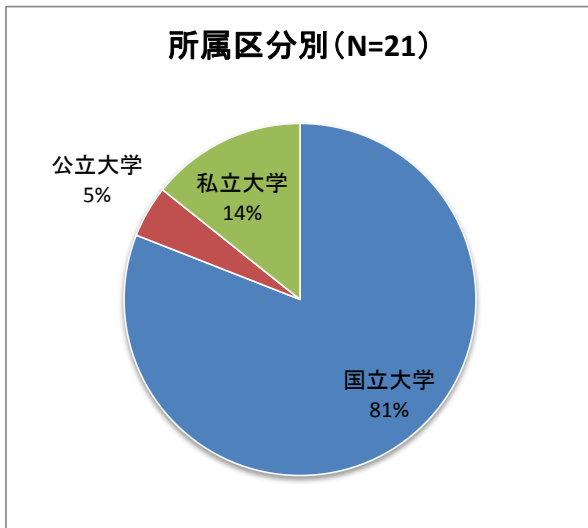
第二分科会には、計 21 名からの申し込みがあり、当日は申し込んだ全員が参加しました。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供頂いた所属や職種等の情報に基づき行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学、短期大学及び関係機関の「通常会員」であり、運営スタッフである「幹事」及び「運営協力者」を除いています。



職種別の参加者比率は、職員が 86%、教員が 14%でした。また、職員の職層を「課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」、「准教授」及び「助教」に分けて示します。職員の係長・係員等が 76%と最も多く、次が職員の課長等及び教員の助教で 10%でした。職員の係長・係員等の参加が多いのは、大学評価の実務経験がほとんどない初心者を対象としたこと、本集会在実務的な内容を扱った研修会であることと一定程度整合的なデータと考えられます。

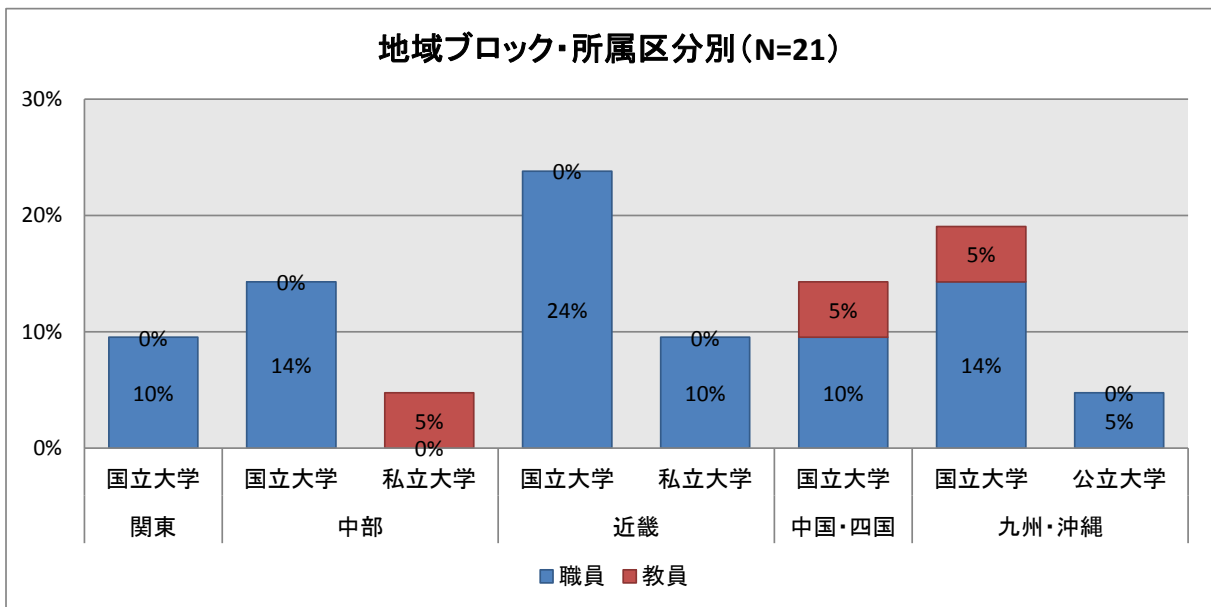


性別は、男性が 43%、女性が 57%でした。また、職種別とあわせて確認すると、女性職員が 57%と最も多く、次が男性職員で 29%であり、女性の係長・係員等が全体の 52%を占めていました。



所属区分別では、国立大学が 81%を占めており、私立大学は 14%でした。また、地区ブロック別では、本集会の開催が神戸大学であったことから、近畿地区の参加者が 33%と多く、次が九州・沖縄地区で 24%でした。なお、北海道・東北地区からの参加者はいなかったことから、西日本の国立大学を中心に参加していることが伺えます。

地域ブロック・所属区分別と職種別をあわせて確認すると、国立大学職員の参加状況については、近畿地区の 24%が最も多く、中部地区及び九州・沖縄地区の 14%でした。また、私立大学職員の参加状況については、近畿地区のみで 10%でした。



(大野 [鳥取大])